

2025 年度 スポーツ科学部 FD 活動報告書

2025 年度におけるスポーツ科学部の FD 活動は、全学の FD 方針に基づき、以下を中心に実施した。

1. 大学 4 年間を通した基幹科目の充実

活動内容と成果

スポーツ科学部では少人数クラス制の必修授業である「スポーツキャリア演習Ⅰ～Ⅳ」、「スポーツ専門演習Ⅰ～Ⅳ」を基幹科目として 1～4 年全ての学年に配置することで、系統的な学び（スポーツ科学への導入と専門的内容、ジェネリックスキルの修得など）を促すとともに、個別面談などで学生の学びをフォローし躓く学生を一人でも少なくすることへ取り組んでいる。これらについて、授業担当教員だけでなく各学部委員会とも連携することで充実を図った。

- ・将来構想検討委員会、教務委員会：基幹科目を含む学部全体のカリキュラムの内容を検討した。
- ・スポーツキャリア演習Ⅰ～Ⅳ：計画された授業内容を、主担当を含めた授業担当教員と SA が実施。半期授業の最初と最後には担当教員と SA、毎授業後には各クラス教員と SA での振り返りを実施。また、各クラスにおいては担当教員とクラス学生の個別面談を実施し（学生とのコミュニケーション、大学生活での悩みや躓きの発見、履修相談など）、その内容を UNIPA「学生プロフィール」へ登録（教員間で共有）。
- ・スポーツ専門演習Ⅰ～Ⅳ：卒業研究の実施を主軸に、各教員（ゼミ）別に授業（ゼミ活動）を実施。学生主体の実行委員会で企画・運営する活動として、スポーツ専門演習Ⅰ・Ⅱでは成果発表会、スポーツ専門演習Ⅲ・Ⅳでは卒業研究発表会を学年末に実施した。卒業研究発表会では、学生の発表に対して教員からの質疑の時間を設けたこと、学部外・大学外の方へも参加をご案内し公開とする、新しい試みを実施した。また、スポーツキャリア演習と同様に、各クラスでの担当教員と学生の個別面談を実施し（学生ともコミュニケーション、大学生活での悩みや躓きの発見）、その内容を UNIPA「学生プロフィール」へ登録（教員間で共有）。

評価

スポーツキャリア演習では概ね狙い通りの授業が実施できた一方で、振り返りにより各種課題も挙げられたため、次年度へ向けて改善に取り組む。スポーツ専門演習においても例年通りの取り組みをしつつも、新しい取り組み（卒業研究発表会における、各ゼミ代表者の発表への他ゼミ教員からの質疑）が教員間で高評価であった。このようなゼミ間交流を促す取り組みを、次年度では3年生の成果発表会でも導入すべく、現在検討している。

2. 教員の教育・研究能力・学部運営能力等の向上

活動内容と成果

- ・有志教員，将来構想検討委員会，FD 委員会：隔週 30～60 分程度のスポーツ科学部教員勉強会を実施し「教員相互の研究を知る，研究意欲を高める，自己研鑽，大学・CSC との連携，学部の現状や課題の共有，新たな科目（スポーツ科学社会実装演習）の模擬授業実施，等」を図った。本勉強会は有志教員を中心とした有志の集まりであるが，毎回半数以上の教員参加があった。
- ・将来構想検討委員会：スポーツ科学部が今後目指す MVV（ミッション・ビジョン・バリュー），学生が目指すルールとマナーを改正した。
- ・FD 委員会，自己点検評価委員会：学生の声（要望等）の収集するために全学生対象の学部独自のアンケートを実施した。また，年度内における学部各委員会の活動内容をまとめた報告書を作成し，教員間で共有した。

評価

スポーツ科学部教員勉強会の目的である「教員相互の研究を知る，研究意欲を高める，自己研鑽，大学・CSC との連携，学部の現状や課題の共有，等」に対し，一定の成果が得られているとの声が，教員から寄せられた。また，MVV や学生が目指すルールとマナーを改正することで，学部が目指す方向性と重視すべき事項の共通認識が得られる，との声が教員から寄せられた。

3. 2025 年度から始まる 105 分授業への対応

活動内容と成果

- ・FD 委員会：共通教育センターFD によるアンケートやワークショップへの参加を、スポーツ科学部教員へ促した。また、学部教員間での授業観察（相互授業観察）を実施した。授業観察の視点を整理した「授業観察シート」を基に観察者が授業を観察し、その内容を被観察者へフィードバックすることで教員相互の学びの機会とした。さらに、全教員のフィードバック内容をまとめた資料と、その内容から導き出されたスポーツ科学部における望ましい授業を考えるための視点整理し、全教員へ提示した。
- ・教務委員会：スポーツ科学部の重要科目の一つである実技実習科目において、105 分授業に向けた課題を整理するとともに、シラバスデザイン案を作成した。さらに、それらの説明会を、実技実習担当教員全員（スポーツ科学部・CSC 所属教員、非常勤講師）を対象に、対面及びオンラインにて実施した。

評価

相互授業観察により、他教員の授業における取り組みや改善点等の具体的な内容が共有されたことで、「自身の授業を改善するヒント・参考になった・刺激になった」等の声が教員から寄せられた。また、実技実習科目の 105 分化授業に対する課題やシラバスデザイン案の共有により、105 分化に向けての教員間の共通認識が図られ、シラバスが滞りなく作成された。